

[051] 語文研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/10221>

出版情報：語文研究. 51, 1981-06-01. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：

編集後記

研究室の窓から見下ろせる理学部の農園は、一年中いつも殺風景な風景ですが、しかし今、五月だけは、さすがにみずみずしい新緑です。いつごろからか、その一隅に住んでいる狸の頭数がちかごろは減ったとか、ふえたとか、そんなことも話の種になるこの頃です。

例の改修工事も、すこし予定が変わったとかで、研究棟は本年度はこのままとすることになり、今年も研究室員の異動もなかったこともあって、一同束の間の安泰をたのしんでいる形です。

五一号には、西丸氏の支子文庫本「拾玉集」に関する御報告と、大学院生二人の国語学の論文、それに「紹介」二篇を収めました。西丸氏の論文は、九大学の事業となった「在九州国文資料影印叢書(第二期)」所収書目の解題が紙幅の関係で簡に過ぎるため、別に詳しく書いて頂いたものです。この本の特異な位置は学界で注目される事と思われれます。高山・望月の両君の論は、問題ももちろんありましたが、そのユニークな着眼はお認めいただけるでしょう。

○先に「束の間の」と言ったのは、最近の郵便料金的大幅な値上げもあるからです。今年中は何とかこのままでもいくとしても、明年か明後年には、対策を講じる必要があります。印刷費ももちろんそれに伴って上ってゆくことでしょうし、何ともしや頭の痛いことです。

○影印叢書第二期の方は、皆さまの御支援の下に、至極順調に推移しまして、五月中には刊に漕ぎつけるはずですが、いづれ正式に御報告致す予定ですが、とりあえず中間報告として、この誌上を借りて、御安心を願っておきたいと存じます。(今井記)

規 定

- 一、投稿は原則として九州大学国語国文学会員に限るがそれ以外のの方に投稿を依頼することもある。
- 二、投稿原稿は四百字詰原稿用紙三〇枚内外を一応の規定としその際、二枚程度の要旨を添付されたい。
- 三、原稿の採否等については運営編集委員会に一任されたい。
- 四、刊行は年二回(春・秋)を原則とする。
- 五、刊行会費は現在年額維持会員三千円(各号二部配布)、通常会員千五百円(各号一部配布)とする。
- 六、執筆者には別に二部を贈呈し、希望者には抜刷を実費で分ける。
- 七、会員以外の購読者は毎号ごと誌代を納められたい。